

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る「ふり返しシート(令和5年度)」調査報告書 ～令和5年度の住民自治組織の取組みのご紹介～

資料No.2

概要版

市内の住民自治組織から令和5年度での取組みについて「ふり返しシート」で提出いただきました。一例を報告します。

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(令和3年3月策定)

■目指す方向性:地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進め、(令和7年度)住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、さらに心豊かな暮らしを築く

■計画の柱:心が通い合う持続可能な住民自治組織づくり
住民の安全・安心な暮らしの確保
住民主体による地域課題解決力の向上
地域の特性を活かした魅力の維持・再発見

単位自治組織(町内会、集落)について

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画での地域ごとの課題

鶴岡地域/247組織	藤島地域/46組織	羽黒地域/69組織	櫛引地域/21組織	朝日地域/38組織	温海地域/27組織
①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②活動の担い手となる人材の確保と育成 ③情報発信と会員確保 ④地域課題の解決に向けた取組の実施 ⑤災害に備えたコミュニティづくり ⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①各世代が参加しやすい活動に再構築 ②将来を見据えた持続可能な組織づくり ③広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し ④広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり ⑤地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築 ⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②多様な人材の活用と役員等の負担軽減 ③多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり ④お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり	①広域コミュニティ組織の検討 ②住民自治組織等の理解促進と事業の見直し ③次代を担う人材育成と後継者対策 ④安全・安心な地域の構築	①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②住民による魅力的な事業づくり ③安全安心な地域づくりのための組織づくり ④単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し ⑤希薄化した連帯感の再構築	①健全な財政運営に向けた検討や組織の見直しによる役員等の負担軽減 ②将来を見据えた単位自治組織の検討 ③安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進 ④次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり ⑤高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり ⑥広域コミュニティ組織の検討

「ふり返しシート」回答から一部抜粋(括弧内は、回答いただいた組織の地域名と世帯数)

組織づくり - 役員に子供育成会代表が選任され町内会活動に参加している。R6年度子供育成会代表が交代するが、そのまま役員として選任され世代交代に繋がるようになった。(鶴岡:31~100世帯:市街地) - 次世代のリーダーの育成を意識した組織運営とするため、公民館長及び主事を構成員とした自治会役員会を実施した(10回)。自治会運営を共に行うことにより、将来の地域を担う覚悟と自覚が醸成されると思う。(鶴岡:31~100世帯:市街地) - 役員選考委員会に女性を登用し、女性を含めた複数人で推薦者に依頼して伺った。単発の事業にサポーターとして参加していただいた。複数年継続することで徐々に役員を担っていただく事に抵抗のハードルが低くなってきたと感じる。(鶴岡:301世帯以上:市街地) - 役員の負担軽減と交代がスムーズに移行できる様に役員数を12名から20名に増やした。役員間の連携を強めた。(鶴岡:301世帯以上:市街地) - 転入してきた住民のコミュニティ参画を促すため、事業への参加を呼び掛けた。(羽黒:31~100世帯) - これまでは予告なく自治会長を決めていたが、1年前から次期会長を決めたこととした。1年間の流れを確認しながら準備することができ、自治会運営の円滑化が図られた。(朝日:31~100世帯) - 自治会役員、各団体役員について、各班から選出する計画を9年前まで作成した。役員のみ手が課題となっていたが、各班の輪番制により役員を選出する形を継続することができる。(朝日:31~100世帯)	- 新年会やお祭り、草刈り等の地域行事の後の懇親会を再開したことで、久しぶりの親交の場となり、広い世代間での地域の方々との交流が図られた。地域内の貴重な情報を得る場となり、集落員の繋がりが円滑な事業実施に繋げる場にもなった。(朝日:30世帯以下) 情報の伝達 - 回覧板を有効に活用し、情報発信に努めた。情報によっては複数回発信した。回覧板の数を2から3に増やした。回覧板の数が1つ増えたことで迅速に情報が伝わるようになった。(鶴岡:30世帯以下:郊外地) - 役員間のLINE活用により会議招集連絡事項伝達、役員間の情報交換はじめ費用・時間節減に役立った。情報伝達の時間短縮に効果が大きかった。(鶴岡:101~300世帯以下:市街地、羽黒:31~100世帯) - 実情に合わせた自主防災組織の見直し、各戸への展開及び春先の消防団、保健衛生推進員との連携によって各戸への注意喚起を行った。回覧板等の活用により突発的なこと、緊急を要する事案についてスムーズな流れができた。(藤島:30世帯以下) 人材の育成 - 青年部を中心に廃品回収に年6回取り組み、地域の活動に参加してもらっている。同じ人が何役も持たず、1人1役で適任適所で振り分けている。身近な事から活動に参加することで自覚が芽生えている。(鶴岡:30世帯以下:郊外地) - 青年部から自主防災組織指導者講習を受講してもらい、次期リーダーとして活躍できるようにしている。町内会活動の中心的な担い手になっていくと思う。(鶴岡:101~300世帯:市街地) - 夏祭り運営を有志の若手実行委員会(30~50歳代)に移行して2年目。将来の町内会運営全般を担う人材の育成が目的。2年目の夏祭りも若手が実行した。町内会活動への関心が出てきているように感じる。(鶴岡:301世帯以上:市街地) - 神社を中心とする民俗芸能に若い人が少しずつ参加するのがみられる。(櫛引:101~300世帯) - 子供育成会が主体となり、町内会及びみどりネットの参画で、地域道路のごみ拾いと町内会全戸へ花を移植したプラントを配布した。併せて、子供達に共用部分の水やりの役割を持たせた。子供のころから地域事業に参画することで、地域での役割や責任などの心の育成に繋がった。(藤島:31~100世帯) 人のつながり - 住民同士の交流の場として春・秋のランチ会を新しく行った。高齢者が多かったが約半数の住民が参加した。(鶴岡:30世帯以下:郊外地) - 福祉施設と共同楽園を作っている。また、芋煮会へのお誘いを受け、長生会と子供会が参加して利用者と交流を図った。(鶴岡:31~100世帯:市街地)	- 町内の夏祭りを企画する「夏祭り実行委員会」への助成金を増額し、主体性を持たせたところ、多くの参加があった。家族・子供達が多く集まり、世代交流が図られた。(鶴岡:31~100世帯:市街地) - 学びと健康づくり、世代間交流を目的にポッチャ交流会を開催した。前年踏襲の事業とせず、新たな事業を実施することで、世代間交流の場が生まれた。(朝日:31~100世帯) - 運動会等のコミュニティ事業が復活し、資源回収等については子供育成会との共催とした。世代間のコミュニケーションを深める場として効果大であり、地域意識を高める事業の実施は必要不可欠である。(朝日:31~100世帯) 見守り・支え合い 1人暮らしの高齢者宅の除雪を町民で役割分担して実施している。例年喜ばれている。(鶴岡:31~100世帯:市街地) - 未就学児童や小学生がいる家庭に学区児童館の情報提供等を通じてサポートをしている(未就学児童のいる家庭には町内会で配布するように努めた)。転入家庭は初めの段階での繋がりが大切なので、義務より期待の大きさを伝えるようにしている。発信するとキャッチボールをする手が少しずつ繋がっていくように感じる。(鶴岡:301世帯以上:市街地) - 回覧板制度があるが、高齢者の1人暮らしや高齢者世帯が多いため、特に重要な周知等については、なるべく全戸配布を手掛けている。配布する際に直接顔を見て会話をすることにより、最近の様子や体調の確認ができるようになった。(朝日:30世帯以下) - 高齢者などを対象に、草むしりや買い物代行などの日常の困りごとをサポートする、住民による有償ボランティア支え合い「結の会」への支援を行った。(温海:101~300世帯以下) 子供・若者 - 各行事のトピックス動画等、多様な情報をLINEオープンチャットを活用して自治会員及び進学や就職等で地区を離れている方へ発信した。家族、住民間のコミュニケーションのネタとなること、及び行事への参加喚起となることを期待している。(鶴岡:31~100世帯:郊外地) - 若い世代の町内会活動への理解と参加を促すため積極的に厚生部への参加を勧誘した。公園除草作業や資源回収活動などに子供会の参加をよびかけ、子供の時から町内会活動への理解と参加を促した。多くの子供達の参加とその親(30~40代)の参加が得られた。(鶴岡:301世帯以上:市街地) - 子供達が町を好きになるような事業を行うことが大事。若手中心の夏祭りや子供会に対する助成などを行い、参加する子供達の気持ちに大事にして取り組んでいる。(鶴岡:301世帯以上:市街地) - 児童生徒が減少している中ではあるが、集落全体で清掃
---	--	---

作業を行った。地域のことは地域で守り支える意識を醸成することができた。(朝日：30 世代以下)	確認をすることができた。(鶴岡：31～100 世代：郊外地)	・空き家情報を含む防災マップを毎年全戸配布し、情報提供している。(羽黒：31～100 世代)
・集落の春祭典時、少子化で伝統芸能の継続が危ぶまれたが何とか OG も協力し実施できた。(温海：31～100 世代)	・令和 4 年度に行った家族調査から、①避難時の要支援者②高齢 1 人暮らし③高齢者のみ世帯を把握し、①②の対象者との意見交換と要望等の確認を行い、連絡体制を見直した。(羽黒：31～100 世代)	・空き家の実態把握として、所有者に対し適正な管理の指導をした。(榎引：101～300 世代)
防 災	・自主防災組織の中で各班の班長・副班長を対象に防災アドバイザーを講師に招いたマニュアル作りを 3 回行った。各班の具体的な行動のマニュアルを作成することで、行動の明確化を図った。(朝日：31～100 世代)	・空き家の所有者連絡先について調査することで維持管理体制を整備し、また空き家の所有者からも徴収している集落の維持管理経費としての消防費(年間 5 千円) 納入協力を推進した。(朝日：31～100 世代)
・火災や地震で家屋倒壊した場合の避難所として公民館を使用することはあると考えられる。備蓄品がなく、今後準備に向けて話し合いをしている。一度に準備することは不可能なので数年計画で実施予定。(鶴岡：30 世代以下：郊外地)	・コミセンの一斉避難訓練として、大雨災害を想定した避難訓練と一次避難場所である公民館で給食班による炊き出し訓練を実施した。炊き出し訓練は初めての実施であったが、スムーズに行うことができ、防災意識の向上が図られた。(朝日：31～100 世代)	広域コミュニティ組織の検討
・女性 1 人を防災担当とし、取組みに女性目線を追加した。(鶴岡：31～100 世代：市街地)	空き家対応	・広域の自主防災会で、新名簿を作成し、手引きと共に班員に配布し、意識づくりをした。(榎引：101～300 世代)
・災害時避難行動要支援者支援制度を制定し、要支援者と支援協力者を登録した。協力者の方には自身の安全を確保しながら個々の要支援者の避難行動の支援をお願いした。1 月の能登地震時には要支援者を最優先に安否	・空き家となる場合には管理者に賛助会員になってもらっている。(鶴岡：101～300 世代)	その他
		・集落単独では高齢化のため参加できる人が少なくなってきたており、隣の集落との合同の組織または行事を行うことも考えていく必要がある。(羽黒：30 世代以下)

広域コミュニティ組織について

第 2 期鶴岡市地域コミュニティ推進計画での地域ごとの課題

鶴岡地域／21 組織	藤島地域／5 組織	羽黒地域／4 組織	榎引地域／なし	朝日地域／3 組織	温海地域／なし
①時代に調和する運営や事業展開と持続可能な組織づくり	①地区自治振興会を核とした活動の推進	①身近な地域の居場所づくり		①住民理解の促進と単位自治組織への支援	
②「地域ビジョン」策定など地域課題解決に向けた取組の強化	②持続可能な運営方法の確立	②単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成		②人材の確保に向けた検討	
③コミュニティ防災のまちづくり	③地区内外の団体との連携強化	③郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり	※単位自治組織の関連項目(再掲)	③希薄化した連帯感の再構築	※単位自治組織の関連項目(再掲)
④単位自治組織の機能補完	④福祉と防災で新たな役割を確立	④自主防災組織と連携した防災の体制づくり	①広域コミュニティ組織の検討	④安全安心な地域づくりのための組織づくり	⑥広域コミュニティ組織の検討
⑤地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討	⑤「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	⑤安心して暮らし続けられるコミュニティづくり			
⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり					

「ふり返しシート」回答から一部抜粋 (括弧内は、回答いただいた組織の地域名)

持続可能な組織 ・振興会の各専門部(社会福祉部を除く)に学区の小学校 PTA 会長と連携し、PTA 役員が所属する仕組みができた。その後、PTA 役員を終えても振興会専門部員として活躍している方が多くなってきた。また、その方々が中心となり、学区のまちづくり団体を組織し、学区の若手で地域の活性化に向けた取組みを行っている。(鶴岡) ・運営委員と次世代グループとの意見交換の場を設け、連携強化を図った。(鶴岡) ・町内会役員との会議を設定し、会費等の見直しを毎年行い、事業の実施では役割を分担し、スムーズに運営できた。様々な意見を取り上げ事業展開している。(藤島) ・東北公益文科大学大学院と連携し、中学校を会場に「地域語り合い」を開催した。中学校生徒が幅広い年齢層の地域住民と語り合う機会となり、また、スタッフや地域住民がテーブルファシリテーターを経験することで、地域の人材育成を図った。(朝日)	る。若手の取組みを支援する中で学区の担い手育成に向けて、更に取り組んでいきたい。(鶴岡) ・関係団体等との連携を強化しながらも、諸事業に女性や若者の声が反映できるよう、新たに団体枠を募集したりして協力を依頼している。(藤島) 世代間交流 ・毎週水曜日の放課後子ども教室の活用により、地元スタッフが様々なプログラムを通して小学生の居場所対策に取り組んでいる。子供達と地元スタッフの関わり合いが強くっており、子供達の成長が感じられる。(鶴岡) ・敬老会及び新春のつどいにおいて、地域の子供達の発表の場を設け、地元住民との交流が図られた。(鶴岡) ・毎月開催の「放課後子ども教室」や「わんぱく広場」の事業で支援員や実行委員の協力の元、様々な体験の機会を設けると共に、児童達との世代間交流を図った。(藤島) ・市民運動会などの運動事業・地域学習講座・文化祭・農園などの各種事業を行うことで、小学生から高齢者まで幅広い年代の市民との交流が深まった。(藤島)	について対応を拡充できた。(鶴岡) ・近隣自治会 4 地区で災害相互援助協定を締結するために、大規模災害時にはお互い施設を避難所として使用する、生活支援品を提供すること、人的派遣を行うことについて協議した。(鶴岡) ・福祉協力員、民生児童委員、自治会議員、振興会役員にて「福祉防災マップ」の更新を行った。マップにある災害時に避難を要すると思われる高齢者や子供のいる家庭の箇所に名前を記入し、付箋を貼り付け、より分かりやすくした。(鶴岡) ・地区を 5 ブロックに分け、集落自主防災会や振興会防災安全部、消防、警察等と連携しながら、毎年順番で防災訓練を実施しており、担当ブロックの住民が、避難訓練や炊出し等を体験した。(羽黒) ・地域と連携した一斉避難訓練を開催し、所管する 23 自治会のうち 8 自治会からの参加があった。避難の流れを確認することができ、また、避難マニュアルの必要性や避難所となる公民館への防災用品・備品等の不足等、新たな課題も確認できた良い機会となった。(朝日)
地域ビジョン策定 ・地域の資源を未来に繋げていくための検討委員会を 7 回実施した。検討内容等をチラシ・自治会総会で周知したことで地域の方々の関心が高くなり、問い合わせが来るようになった。(鶴岡) ・令和 4～5 年度の 2 年間に渡り、地域づくりに関するワークショップを開催し、「地域の未来をみんなで築こう!」というタイトルの地域ビジョンを完成させた。今後は、地域住民にまちづくりの方向性を示しながら、地域ビジョンを柱に事業内容の見直し等を行い、進めていく方針である。(藤島) ・地域ビジョンのキーワードをもとに、多世代が交流できる場所と機会づくりに取り組んだ。また、事業実施の報告と次年度に向けてのふり返りの場を設けた。(羽黒) ・地域ビジョン策定に向けて、策定委員会・小委員会を重ねて開催した。課題の洗い出し、意見交換、専門機関による助言により、地域の良さや愛着が深まったように思われた。(朝日)	支え合い ・地域版おたがいさま見守りネットを見直し、普段の暮らしのための「見守り」"手引きシートを再確認した。高齢者 1 人世帯の確認や見守りができた。(鶴岡) ・除雪支援として「お助け人」事業を実施しているが、ごみ出し支援も視野に入れながら活動を充実させていく。(鶴岡) ・困りごと、何でも相談等ができる地域カフェの周知を図るため、各自治会のサロンを利用して年間 2 回の自治会での開催に努めた。様々な相談窓口がわかって良かったとの声があった。(鶴岡) ・小学校 6 年生を対象として「認知症サポーター養成講座」を継続実施している。オレンジリングを取得する意義を感じてもらい、進んで認知症の方に対して行動できるようになることを願っている。(鶴岡) ・社会福祉協議会の助成事業を活用した「おだがいさま除雪支援事業」の実施から 5 年目となった。年々事業が浸透して、支援者 12 名、要支援者 22 名となり、支援者、要支援者共に増加傾向である。(朝日) ・「やまがた県除雪志隊」に登録し、県外からの除雪ボランティアを招待した。地域住民も除雪志隊に参加し、独居高齢者宅に大好評であった。(朝日)	行 事 ・学区の文化財を広報であるコミセンニュースのシリーズで掲載したり、ウォークラリー大会を開催して学区の神社、仏閣、貴重な施設、学区ゆかりの人物の場所、石碑、内川にかかる橋などを巡るなどして学区の良さを再発見してもらった。(鶴岡) ・高等学校福祉系列の生徒達がコミセンや町内会行事に参加し、学区の子供達がその姿を見ることで自分達も何かできるのではないかと、ということを考えてもらう機会をつくれた。(鶴岡)
情報発信 ・Facebook、Instagram、X にコミュニティネットワークの活動をアップすることで事業の様子を広く周知することができた。閲覧数も増えていることから興味を持ってくれる方が増えていると言える。(鶴岡)	防 災 ・鶴岡工業高校の生徒の協力により、避難路ヘソーラーパネルを活用した照明器具を取り付け、夜間時の避難	新たな取組 ・若い世代を含む多世代交流や賑わいづくりの方策についてのミーティングを 2 回開催した。賑わいのある学区、若い世代を含む多世代の交流が期待される事業など多くのアイデアが出された。(鶴岡) ・市有施設を借用し、自治会活性化委員会(自治会も構成団体)が運営主体となり、釣堀やカフェ等の運営を行っており、交流人口の拡大や雇用確保に繋がるとともに、その収益の一部から自治会で寄付を受けた。(鶴岡)
後継者の育成 ・高校生や 20 代の若い世代から地域活動に参加してもらったところ、他の地域行事にも参加してくれるようになってきた。(鶴岡) ・学区の若手で地域の活性化に向けた取組みを行っている		連帯感の再構築 ・生涯学習講座や健康講座など小さく集まれる機会を設けた。コロナ分類が変わったことで集まりたい気持ちの方、もう一歩踏み出せない気持ちの方と入り混じりながら、講座等を開催した。各々の心に負担のない形で徐々に集まるようになっていく。(鶴岡) ・敬老会や運動会の開催に向けた地域課題を話し合うために各自治会長や地区協議会との話し合いを行った。(朝日)